

『春合宿レポート』

期間 昭和五十年三月二十九日〜四月五日

参加者 岩根 小島 原 龍原 藤岡

講師 毛利

<コース>



三月二十九日

宇和島駅に我々一学生三名、野崎、毛利、溝口

が到着したのは、夜の八時頃である。駅には

先着していられた二年生四名、岩根、小島、原、龍原

が迎えに来てくれた。近くの食堂で夕飯を

とってから自転車を組み、タカシマ場へ向けた。

タカシマ場は駅から十五分ぐらいの所だ。海に

近かった。さっそくテントを張り寝ることにした。

だが、この夜は風が思ったより吹いて、テントはバ

サバクと音をたて、ポールはしなな、たりにて、と

ても寝られぬものではなかった。

三月三十日

昨夜は風のためとみんが寝られなかった。たよう

に、しかし朝風のパンは食べられた。よほど

と腹が減っていたので。

一町頃、船越ヒツク。ここマダラヌホリト

に乗り、海中公園を見らうとウイロイロのてあ

さび、残念ながら海が荒れていり、船は

欠航とのことだった。仕方なく城辺町まで戻

り、東海小学校の校庭にテントを張らして

おすごした。夕飯は焼肉にしたのだが、テント

の中でだったため、煙はこもるとクラクラ

とした。テントには臭がしめついでに、

あまり身場のよいものではないが、

### 宇和島レ城辺町レ船越レ城辺町

(走行距離 75キロ)

三月三十一日

朝、小学校の生徒が集合するところから、

あわてて出発する。宿先を通り拍島へ向

た。相変らず天気は悪く、海は荒れ、雲さ

かこたえて、景色を見ていてもあまり感

ものはなかった。

拍島には行って早く途中に長閑さがある。テント

を、おしゃべりして見晴らしは良いのだが、天候

が悪いのか残念だった。次に野生のウサギに出会

った。天気を悪くして、有りあつて食べられない。

拍島では、キャンプ場がわかりず、アツク

、近所のおばさんがいろいろと世話してくれ、

護国寺という寺の庭に、テントを張ることになった。

このお寺の和尚さんもおしゃべりして、

お風呂に入ってもらった。ご飯を食べて、

お風呂に入ってもらった。ご飯を食べて、

このお寺の和尚さんもおしゃべりして、

お風呂に入ってもらった。ご飯を食べて、

夕日が見え、おしゃべりして、

お風呂に入ってもらった。ご飯を食べて、

夕日が見え、おしゃべりして、



て一杯食べた。

グラスホットにまわって見残しへ行つた。

水は緑色でほごつてあり、魚はほとんど見え

なかつた。見残しは不思議な岩でできている

。つまり小さな穴がこがいてはけられてい

のである。どうしてあのような穴がこがいて

いるのであろうか。

続いて別の博物館へ行く。ここは金魚、感

激した場所である。本當に色々の魚があるも

ので、色・形の美しいもの、奇妙な形のもの

があり、一見の価値がある。

見物船をまわす。燈台、みんなで乗っか

て写真を撮らう。大きな岩、岩つばめなどが思

い出さねえ。また人の数も多い。近くにはキ

ャムに適當な所がなかつたので、少し走って

きたいな砂浜の近くの公園でキャンプア

電車は定時岨に鍵掛付近の海岸

(走行距離 60キロ)

四月三日

不便な所にキャンプアしたもので、水もトイレも

ない。朝、ポリリンクの水が、何故か少なくな

っていた。どうにかカラア又ートルをつくらなければ

残っていたので助か

中村駅に着く。市役所を回り、少しホテルの

前の児童公園にキャンプアすることにした。夕飯は

肉づめとマンボウを食った。みんな

は、もう飯食ういと云っていたが、手前でもデザ

ートに、おはきとバナナを食った。

鍵掛に中村 (走行距離 30キロ)

四月四日

今日は早足を変更して高知まで始行である。所

間が早いので、手ツキは高知駅で出すことにした。

高知に降りて、土電西武のらりうデパート

の食堂へ(東天紅)で、肉入りステーキの

A 豚屋をやってた。汚れたかこのク人衆は、

体とんが固く見えたりうわ、腹を蒸らして

桂坂へ向う。ここは七色石で有名なよう

だが、大きくて、まおひなるは、すべに滑る

あつしよ。たらしく、小さいのしかなあつた

のは残念だった。

双ヒローがモノレールに乗り、五台山へ登

った。山頂からの市街、平野、浦戸崎のなが

めはかりのものだ。牧野植物園にも入園し

たかったが、閉園時間が過ぎたのでおめじ

した。

若念宿も今日で終りである。国民宿舎で

イルで合宿の無事終了を祝った。

中村レ(輪舟)と高知

(走行距離 25キロ)

四月五日

二年の四名は藤さんの親、の家へ行くことに

してより、朝、我々三名は、高知駅から降りて

車に乗った。高知で、まず、すく帰すこと、うん

と別れ、野崎と私は小豆島に一泊して帰ることに

した。

翌日の小豆島は、天気もよくて、実は快通であ

った。ひがめもすむらしくて、毛刺はもつたいな

りことをしたものに思ふ。

なお、岩松さんは、大歩危・小歩危の瀬谷渡を

まわったそうである。もう一晩四国へ行くことか

らあは、今度はそちらのへも行ってみたいと思

う。

— 27 — MEMO — 28 —